あけましておめでとうございます。
令和２年 オリンピックイヤーの幕が開けました。

電友会会員の皆様を始めとして、多くの無線の仲間が「無線関係大会支援業務」に携わられることと思いますが、皆様のご努力でオリンピック・パラリンピックが大成功裏に運営されることを心から祈願しております。

さて、昨年は天皇陛下がご即位された他、吉野彰旭化成名誉フェローのノーベル化学賞受賞や、仁徳天皇陵を含む百舌鳥古墳群が世界遺産登録を果たす等の嬉しいニュースもありましたが、九州北部、長野、埼玉、千葉、福島、宮城など全国各地で大雨による堤防などの決壊で甚大な被害が発生しました。

最近の工業高校の学科に「土木科」という名前がほとんど見られないことをご存知ですか。「建築科」も同様です。これらの学科は、以前はシビルエンジニアと言われ、最も基本的な学科でした。

ここ数十年公共事業は不正腐敗の温床のように言われ、「コンクリートから人間へ」のスローガンの下に社会インフラへの投資が疎かにされてきました。この結果が、今日の災害大国日本です。

箱物の建設が持つ、建設工事に伴う作業者の雇用、工事機械の購入・開発、建設技術の維持・進歩、上水道・下水道・道路・交通網等の周辺環境の整備、地域の人々の利便や地域間格差の是正といった様々な長所は考慮されず、完成後の施設利用の収支のみから評価されるようになりました。

東京オリンピック・パラリンピックが閉幕後、多くの立派な競技施設が「負の遺産」としてではなく、「平成のレガシー」として評価・活用されていくような気風の社会になることを願っています。

かって、山から山へと通信インフラ作りに励んだ我々の成果であり、街の文化のシンボルでもあった電話局の鉄塔が、再び脚光を浴びることを夢見て。

令和２年 元旦
東京無線支部長 若生憲司